

二〇二五年度 入学試験問題（2月期）

国語国文学専攻（修士課程）

専門科目

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. 解答は、すべて所定の解答题紙に記入すること。
3. 試験開始の合図があったら、解答题紙ごとに受験番号と氏名を記入してから問題にとりかかること。
4. 試験時間は、9時から11時までである。
5. 試験終了後、答案と下書きを回収する。問題冊子は持ち帰ること。

【一】次の課題について論述しなさい。

国語学専攻の受験者

コーパス（言語テキストデータの集積）を使った日本語研究のメリットとデメリットについて述べなさい。

国文学専攻の受験者

日本文学に描かれた「家」について、具体的な作家や作品を取り上げて論じなさい。

【二】次の文章は、森鷗外の小説「追儼^{つゐな}」（明治四十二年五月発表）をめぐって書かれたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。



問1 傍線①～④の漢字の読みを、平仮名で記しなさい。

① 已 (まない) ② 譬 (へば) ③ 我儘 ④ 如何 (に)

問2 傍線a「頭脳を既成の小説概念から清潔に洗っている」とあるが、ここにいう「既成の小説概念」とは、どのような考えをいうのか、説明しなさい。

問3 傍線b「初めて書いた小説」とあるが、森鷗外には既に「舞姫」(明治二十三年)などの小説作品があるのに、筆者はなぜ「追儼」を「初めて書いた小説」とするのか、説明しなさい。

問4 傍線c「鷗外には一貫した小説観がある」とあるが、ここにいう「一貫した小説観」とはどのようなものか、説明しなさい。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

同じ少将、病にいたうわづらひて、a 少しおこたりて、内裏に参りたりけり。近江守の公忠の君、掃部助にて蔵人なりける頃なりけり。その掃部助に会ひて言ひけるやう、「乱り心地はまだおこたり果てねど、いとむつかしう心もとなく侍ればなむ参りつる。b 後は知らねど、かくまで侍ること。まかり出でて、明後日ばかりア参り来む。よきにイ奏し給へ」など言ひ置きてまかでぬ。三日ばかりありて、少将のもとより文をなむおこせたりけるを見れば、

c 悔しくぞ後に会はむと契りける今日を限りと言はましものを

とのみ書きたり。いとあさましくて、涙をこぼして使に問ふ。「いかガウものし給ふ」と問へば、使も、「いと弱くなり給ひにたり」と言ひて泣くを聞くに、さらにえ聞えず。「みづからただ今参りて」と言ひて、里に車取りに遣りて待つほど、いと心もとなし。近衛の御門に出で立ちて、待ちつけて乗りて馳せ行く。五条にぞ少将の家あるに行き着きて見れば、いといみじう騒ぎののしりて、門鎖しつ。死ぬるなりけり。消息言ひ入るれど、何のかひなし。いみじう悲しくて、泣く泣く帰りにけり。かくてありけることを、上の件奏しければ、帝も限りなくあはれがり給ひける。

『大和物語』による

問1 傍線a～cを現代語訳しなさい。

問2 波線ア～ウの主語を、本文中の語で答えなさい。

【四】 次のの中から六つを選び、解答用紙にその記号と項目名を記して、簡潔に説明しなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----------|---|-------|---|--------|---|------|---|-----|
| a | ホノニギノミコト | b | 柿本人麻呂 | c | 三十六歌仙 | d | 今鏡 | | |
| e | 方丈記 | f | 宗祇 | g | 折たく柴の記 | h | 太田南畝 | i | 若菜集 |
| j | 有島武郎 | k | 敬語 | l | 万葉仮名 | | | | |